

夢を目指す皆さんへ贈るメッセージ



苦米地 鉄人

私たちは、資格を手にした瞬間からプロの治療家です。就職、開業、治療院での修行、トレーナーなど、様々な道がありますが、患者様にとっては、新人もベテランも関係ありません。今の痛み、つらさをいかに楽にしてくれるか、治してくれるかが大事です。プロという自覚を持って、患者様一人ひとりに接していくため、自分の目標を明確に持ち、達成のために、“今ここで・ここで今”、何が必要かをしっかり考え、実行していきましょう。



プロ野球のトレーナーは、選手の生活に直結し、即、治療や運動で効果を出さなければいけない時があるなど、大変な面も多い仕事。さらに、判断・決断、しかも即決を求められる場面も多く、チームに与える影響も大きい、責任ある役割です。

苦米地さんは、そんなトレーナーの現場を、日々、自身を勉強成長させてくれる職場と語ります。

苦米地さんが感じる、**トレーナーという仕事のやりがい**は、

- ・ シーズン中はほぼ毎日選手を診ることができ、変化を感じ取れる。
- ・ 治療の効果がすぐに確認できる。
- ・ 選手との意見交換ができる。
- ・ (こうなりたか、どうしたか)
- ・ 選手をプロデュースできる。
- ・ (意志を高めたり、ビジョンを描く支援)
- ・ 様々な資格の医師・トレーナーとの意見交換ができる。

関わっている選手の活躍を目の当たりにできる。

というところ。

プロ野球のトレーナーは、選手の生活に直結し、即、治療や運動で効果を出さなければいけない時があるなど、大変な面も多い仕事。さらに、チームに与える影響も大きい、責任ある役割です。



プロ野球のトレーナーとしての仕事は、早朝の準備から、選手がすべてを終える深夜にまでおよびます。治療やケア以外にも**とても重要なこと**は、一軍・二軍では「選手を見る」こと。練習や試合の間中、選手の動きから目を離さないことだそうです。

ケガの原因になる、「気のゆるみ」を注意深く見逃さないことや、ボールが体に当たったときや足をひねったときなどに、ボールの跳ね返り方や状況で、即時に下す判断が変わってくるためです。

現在は三軍トレーナーを担当。ケガをした選手の復帰を支援する三軍では、**強化選手の対応**がもっとも重要な仕事です。

強化選手とは、苦米地さんと、同期の高卒ルーキーの河内貴哉さん(現カー

広島東洋カーブトレーナー

# 苦米地 鉄人さん

鍼灸学科 2010年卒業 7期生

## 今ここで・ここで今、何が必要か。

プロ野球のトレーナーは、即、治療や運動で効果を出さなければいけない時があるなど、大変な面も多い仕事。さらに、チームに与える影響も大きい、責任ある役割です。

苦米地さんは、1999年のドラフト6位でカーブに入団。切れ味鋭いスライダーとマウンド度胸を武器に、ルーキーで開幕一軍入りを果たし、高卒1年目で2勝と将来を期待されます。しかし、3年目以降、右手親指・肩・肘などの故障に泣かされ、2006年オフ戦力外通告を受け、自由契約に。

身体のしくみやケアに現役時代から興味があったことから、翌春、IGLの鍼灸学科に入学。在学中に、認定パーソナルトレーナー資格NSCA-CPTも取得します。並行して治療院でのアルバイトを3年間継続、実践経験も積み重ねながら、2010年に卒業。1年半の整形外科勤務で経験を積み、2011年10月、晴れてカーブ球団にトレーナーとして復帰を果たします。